

人と犬との
関わり方

犬と一緒に育つ赤ちゃんは 病気に強い



エヴァーグリーン・
ドッグ・フィールド
代表 森 一彦



昨日（7月11日）のヤフーに気になる記事「AFP時事」が載っていました。で紹介しています。「犬が飼われていてる家庭で育つ赤ちゃんは、感染症や呼吸器疾患にかかるリスクが減るとの調査結果が、9日の米小児科専門誌『ペディアトリクス（Pediatrics）』に掲載された。

論文ではこの理由について詳しく説明していないが、毎日ある程度の時間を屋外で過ごす犬が周りに居ること、生後1年内の赤ちゃんの免疫力が高まる可能性があるとしている。猫でも同様の可能性が示されたが犬より弱いようだ。フィンランドのクオピオ大学病院が行ったこの調査は、親が生後9〜52週目に健康記録を取り続けた子供397人を対象に行われた。その結果、犬や猫が飼われている家庭の赤ちゃんは、せき、喘鳴（ぜんめい）、鼻炎などの感染性呼吸疾患にかかる確率が30%低く、また耳の感染症にかかる確率も約半分だった。研究チームは、「動物との接触が免疫系の発達を助けることで、より整った免疫反応をもたらし、感染期間を短縮させるのではないか」と推

論している。』このような短い記事でありましたが、犬博士として有名なブリティッシュ・コロンビア大学の心理学教授のスタンリー・コロン博士も著書の中でこう書いています。「かなり広く信じられているのが、ペットを飼うと子供が動物全般に対してアレルギー体質になるといふ説だ。医師たちはアレルギーになりやすい家系の人に、毛の生えた動物を飼わない方がいいと教える。飼った犬に接触して免疫系が傷つけられた子供は、毛やフケにかぎらず、どんな種類のアレルギーに対しても抵抗力が弱まると説く医師たちも最近までいた。最近の研究では、子どもたちが毛の生えたペットと接しながら育つと、アレルギーになりやすくなるのではなく、なりにくくなるのが実証された。ペットと触れ合いながら成長すると動物関連のアレルギーの発症率が減ると同時に、塵、花粉、ブタクサその他の植物によるアレルギーも減る。犬がいる家庭で育つ子どもは、かゆみや皮膚の炎症をともなう湿疹も起きにくい。アレルギーを持つ子どもは喘息も引き起こしやすくないので、ペットはこの呼吸器疾患の発症も減らすことになる。ペットがいると、成長後にアレルギー体質になる割合が低くなるのは、一つにはエンドトキシンという物質の濃度が関係しているのだから。エンドトキシンは、犬や猫のいる家でバクテリアが作り出す自然化合物である。犬や猫の口内や唾液にふくま

れ、犬からなめられたり、犬がなめた場所をさわったりすることによって、エンドトキシンが人に伝達される。幼児期にこの物質にふれると、子どもの免疫系が抵抗力を発達させるため、成長後にアレルギー反応を引き起こしにくくなる。じつのところ、これらの物質に子どもをふれさせまいとして、たえず清潔にさせていると、抵抗力を育てるチャンスが失われる―その結果、成長後にアレルギーを発症しやすくなってしまうのだ。」その他にも犬になめられることによって、胃腸炎の発症率も3割少なくなることも分かっているようです。ペットになめられたりさわられたりして、病気を発症させる有機体に何度も軽く接触すると、子どもたちの免疫力が高まるといふことによります。「科学的データを総合すると、こんなことが言えそうだ。家で犬を飼うと、人畜共通の病気にかかる可能性は少しばかり高まるかもしれない。だがその点を差し引いても、ペットと一緒に暮らすほうがあなたの全体的な健康状態は向上する。」コロン博士はこのように述べていますが、免疫を獲得するには、子どもが生後1年を過ぎたら犬と一緒に暮らしても効果が無いのか？とか、完全室内飼いの犬では効果があるのか無いのか？とか、もう少し勉強してみたいと思います。

愛犬家にとつてはうれしいニュースでしたし、小生にとつてもドッグランで犬を遊ばせる意義がまた一つ見つかって喜ばしい限りです。

遊ぶ 学ぶ かかり合う...Wan倶楽部
Evergreen Dog Field
ドッグラン・ドッグカフェ・飼い方相談
福島県郡山市熱海町高玉字坂山1-1 警梯熱海ICから約6分
☎024-994-0811 エヴァーグリーンドッグフィールド 検索
福島県19郡保健第21号・訓練第5号(有) Evergreen Dog Field
登録年月日H19年4月6日 有効期限の末日H24年4月5日 動物取扱責任者 森一彦